

「江戸の町」を川の上から眺める

平成27-9-12 山岸弘明

1) 本日の主要スケジュール

- 11時10分 東京駅北口、日本橋口、常盤橋小公園集合。開会式、移動
- 12時20分 東京水辺ライン「水上バス・カワセミ」日本橋発着場出航
日本橋川、神田川、隅田川クルージング
- 13時40分 日本橋発着場戻り
日本橋散歩、小伝馬町「十思公園」
伝馬町牢屋敷跡、吉田松陰刑場跡、時の鐘
- 15時30分ころ 日比谷線・小伝馬町駅前、現地解散

2) 当面の行事計画

- ①秋季一泊旅行(9月29日、30日) 残席あり=追加急募、友達を誘ってください
*29日 JR東北新幹線「白石(しろいし)蔵王駅現地集合(乗車券は各自用意=自由席)
東京発7時44分(やまびこ205号)白石蔵王着9時51分
最後尾自由席1、2車にご乗車ください
*第1日(仙台バス貸し切り=白石城、車中昼食、岩出山城、多賀城)
*宿泊ホテル=仙台サンプラザ
*第2日=仙台城、瑞鳳殿、鐘崎笹かまぼこ館(昼食)、東日本大震災被災、復興地区・ゆり上、大崎八幡宮、仙台駅18時ころ解散(一部を変更することがあります)
- ②11月定例会(10月30日=予備日11月5日) 都内・板橋に中世の城を探る
*都営地下鉄・赤塚線「志村三丁目駅」改札口集合
*主要行程=志村城、赤塚城、板橋区郷土資料館、東京大仏
- ③12月定例会「北武蔵の名城と和紙文化発祥の地をバスで訪ねる」(企画中)



日本橋発着場が
カワセミ



デッキから
川面をみる

カワセミ 乗船券 大人 東京水辺ライン Tokyo Mizube Cruising Line



No.K048031

公益財団法人 東京都公園協会

1) 天保14年江戸図とその時代

- ①6月定例会「夏季研修会」で明治2年東京絵図を使用、今回は江戸後期の天保14年図を同寸法で採録した。
*前回講座では、狭い意味、広い意味での江戸城、大江戸八百八町、朱引き図、日本の覇都・江戸の物流を支えた諸国廻船と江戸周辺小廻り廻船の五大力船、江戸港、江戸城堀割りなどを学んだ。
- ②天保14年(1843)は江戸後期12代将軍・徳川家慶代、水野忠邦による「天保の改革」(幕政改革)真っ盛りであったが庶民の猛反発にあって成功しない。「大江戸八百八町」、江戸は最後の「天下泰平」を謳歌していた。
- ③一方、隣国清国はイギリスとの「アヘン戦争」に敗れ、香港割譲と上海開港を含む「南京条約」の締結をやむなくされた。ペリー来航の3年前、世界の荒波が日本に向けられようとしていた。

五街道基点として発達した日本橋

1) 常盤橋周辺は太田道灌時代からの盛り場

- ①3つの常盤橋=常盤橋御門本橋の常盤橋、本橋老朽化のため大正15年建立の洋式アーチ石橋の常盤橋、北寄りの新常盤橋、3つの常盤橋が並び立つ。本橋の常盤橋御門は現在、修復工事のため立ち入り禁止になっている。集合地点の常盤橋小公園は東京駅側の石橋に隣接、涼しい木立とベンチで開会式を行なう。
- ②太田道灌時代の常盤橋周辺は江戸城直下の日比谷入江に沿って、浅草から千住に抜ける交通要衝の地で、白鳥池、小石川沼を源泉に一つ橋、神田橋、常盤橋に向けて平川が流れ込み、鎧の渡し(橋)あたりが江戸湾の河口になった。
- ③平川周辺は早くから人が住み着いて村落が形成していた。太田氏時代、平川は天然の外堀で、常盤橋は大手口に相当し、浅草口とも呼ばれた。



菊池山哉の考えた五百年前の東京(『五百年前の東京』より)



長祿江戸図

近三堀り日本橋川

- ④天正18年、豊臣秀吉から関東の地を与えられた徳川家康は、道灌の築いた江戸城に入り、慶長5年の関が原合戦勝利で本格的な江戸築城工事に着手する。
- ⑤第1期工事で手がけたのが江戸城と江戸湾を結ぶ道三堀の開削であった。石材などの建設資材を運び入れるための人工運河で、ほぼ今日の日本橋川に相当したが、大手町部分は消滅した。
- ⑥常盤橋門の前身は浅草口御門とされるが起源などは不詳。枡形門は寛永6年、陸奥、出羽の諸大名が構築、丸木橋、高麗門、渡り橋門、枡形で構成、右折れで、櫓台石垣高さは3間3尺、幅4間、長さ19間、門扉は2間2尺だった。

⑦6ページ日本橋周辺図参照

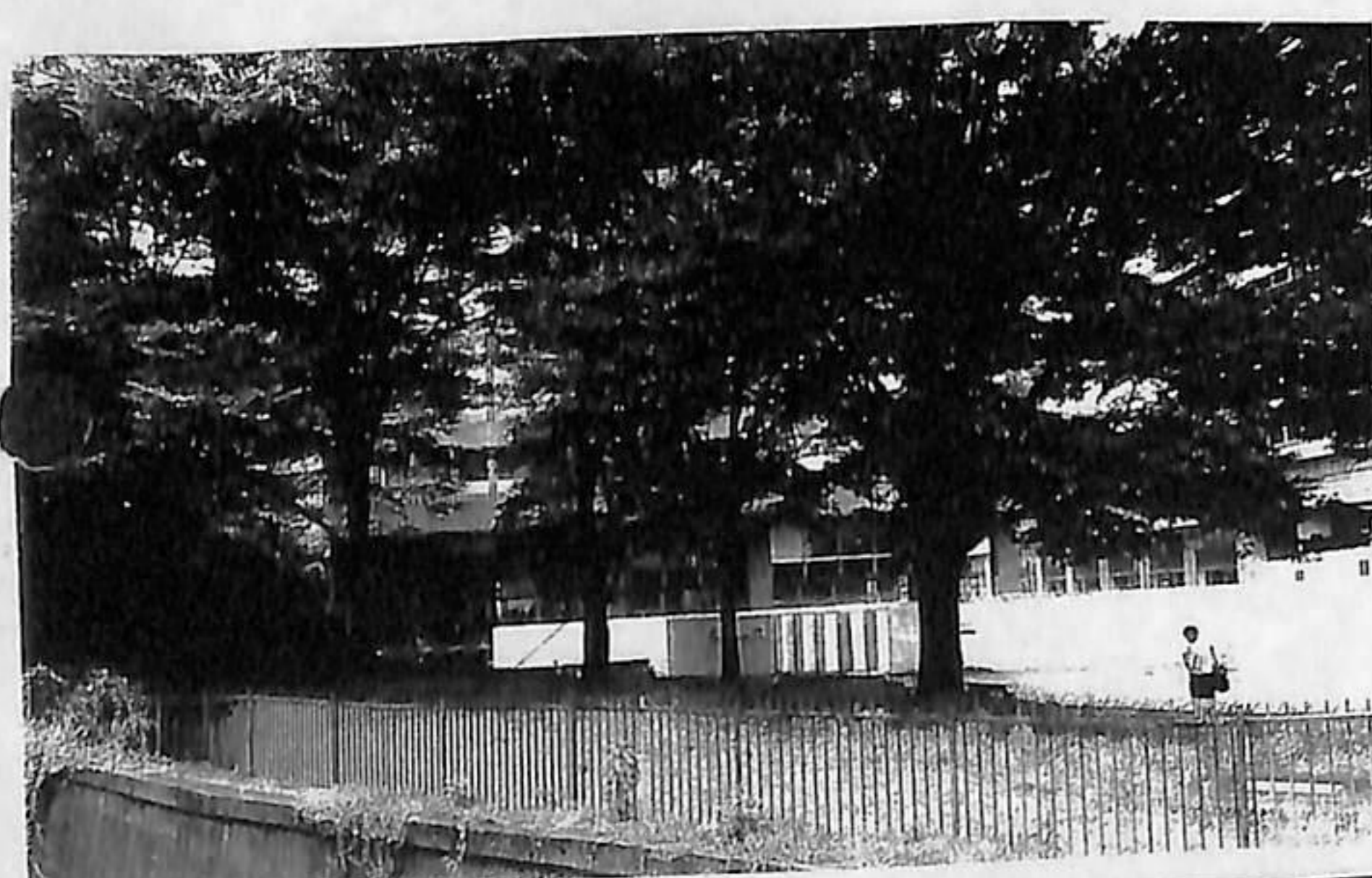
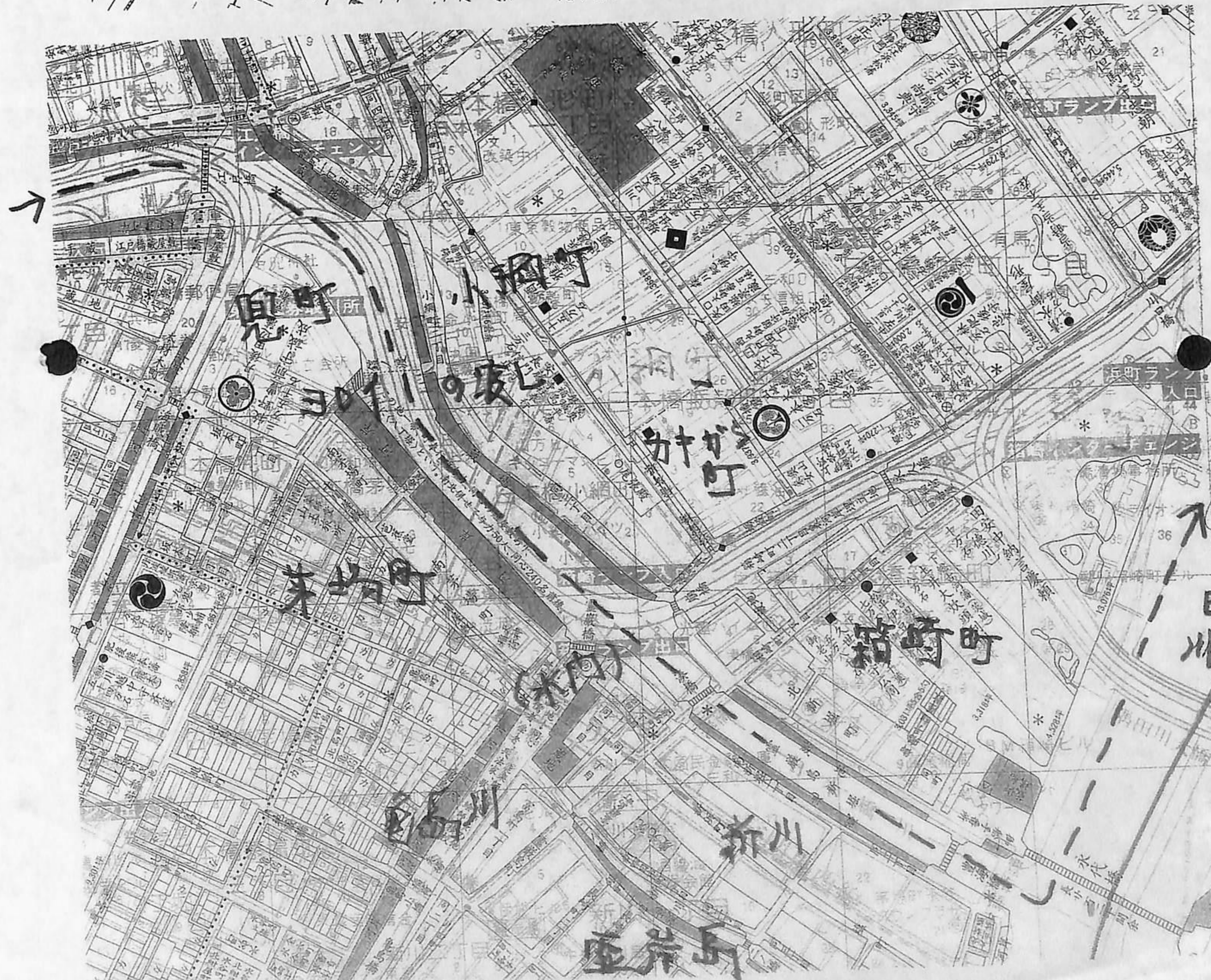
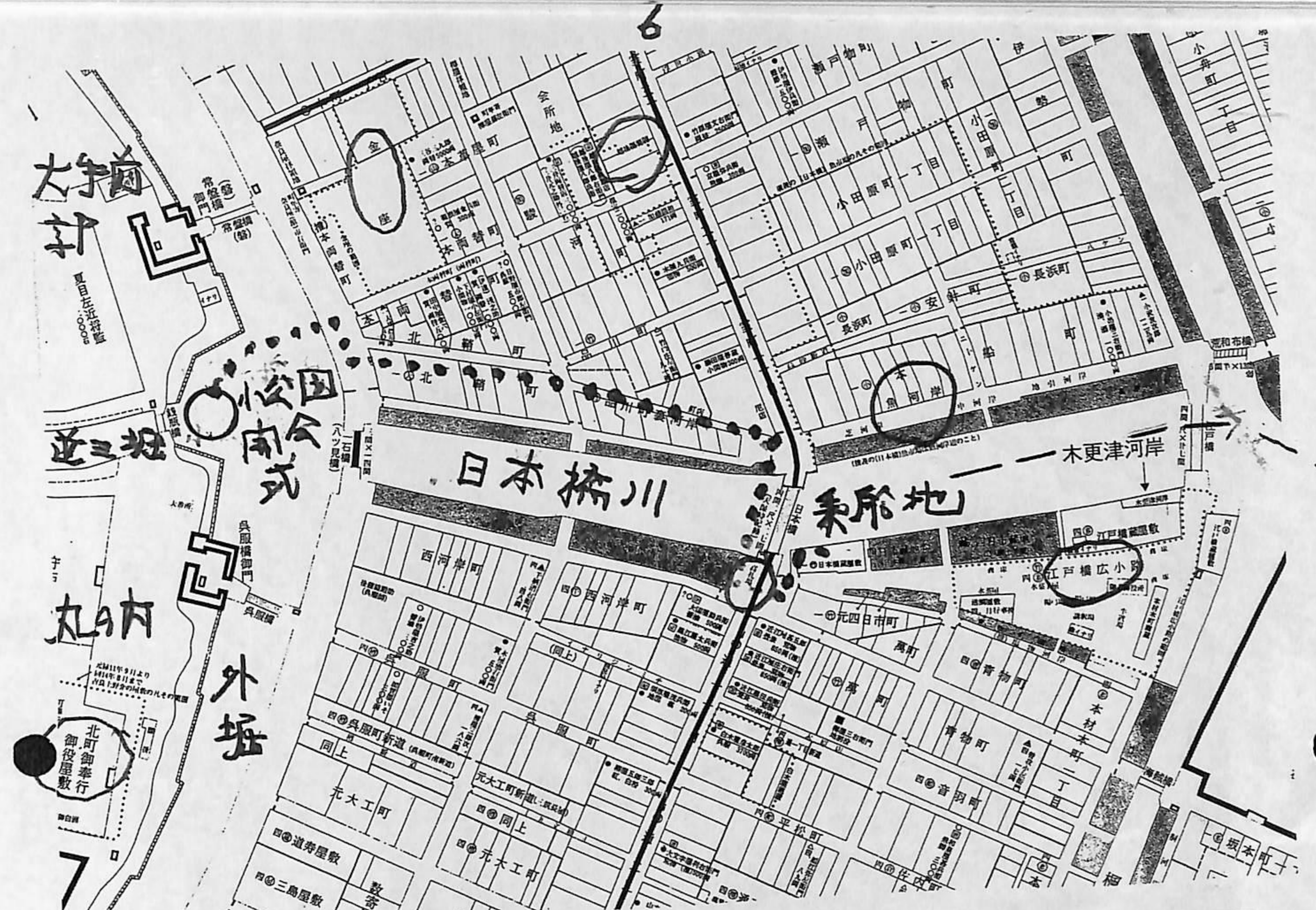
常盤橋小公園の地は元日本橋川、道三堀と外堀の交差する水堀と石垣跡地で、北に常盤橋御門、南に呉服橋御門、東は一石橋、西に銭瓶橋のほぼ真ん中に立地した。

*広義の江戸城内、狭義の城と城下の境界、城側は現在千代田区の手町と丸の内、城下側は日本橋川を挟んで現在中央区の銀座と日本橋となっている

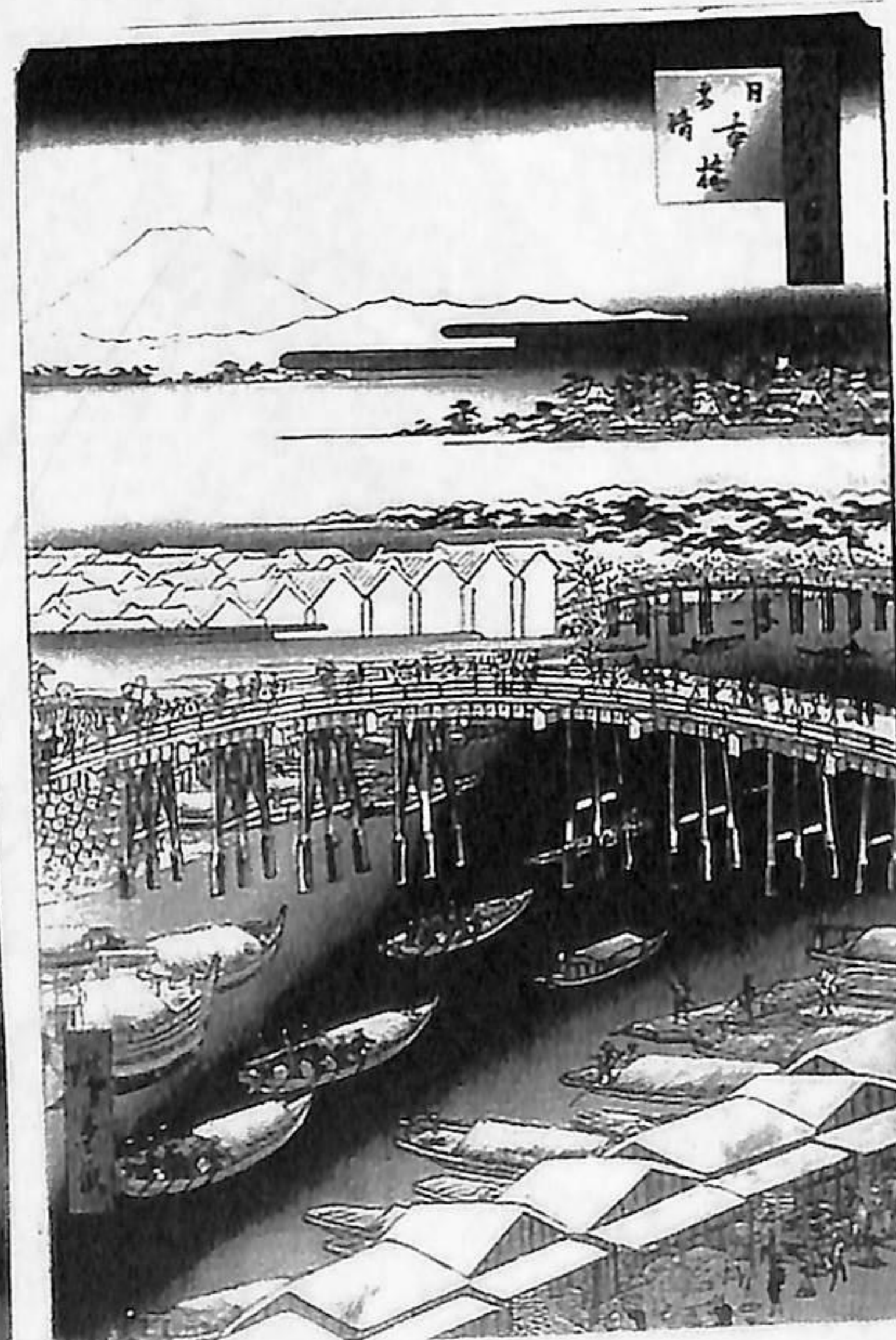
- ⑧常盤橋御門、呉服橋御門=北町奉行所、吉良呉服橋御門内屋敷
- 日本橋地区=金座(日本銀行)、越後屋呉服店(三井)、魚河岸、安針町
- 銀座地区=一石橋、呉服町後藤縫殿助、白木屋呉服店、木更津河岸、江戸橋広小路

お江戸日本橋七つ立ち~童謡でも知られた江戸・東京の中心地

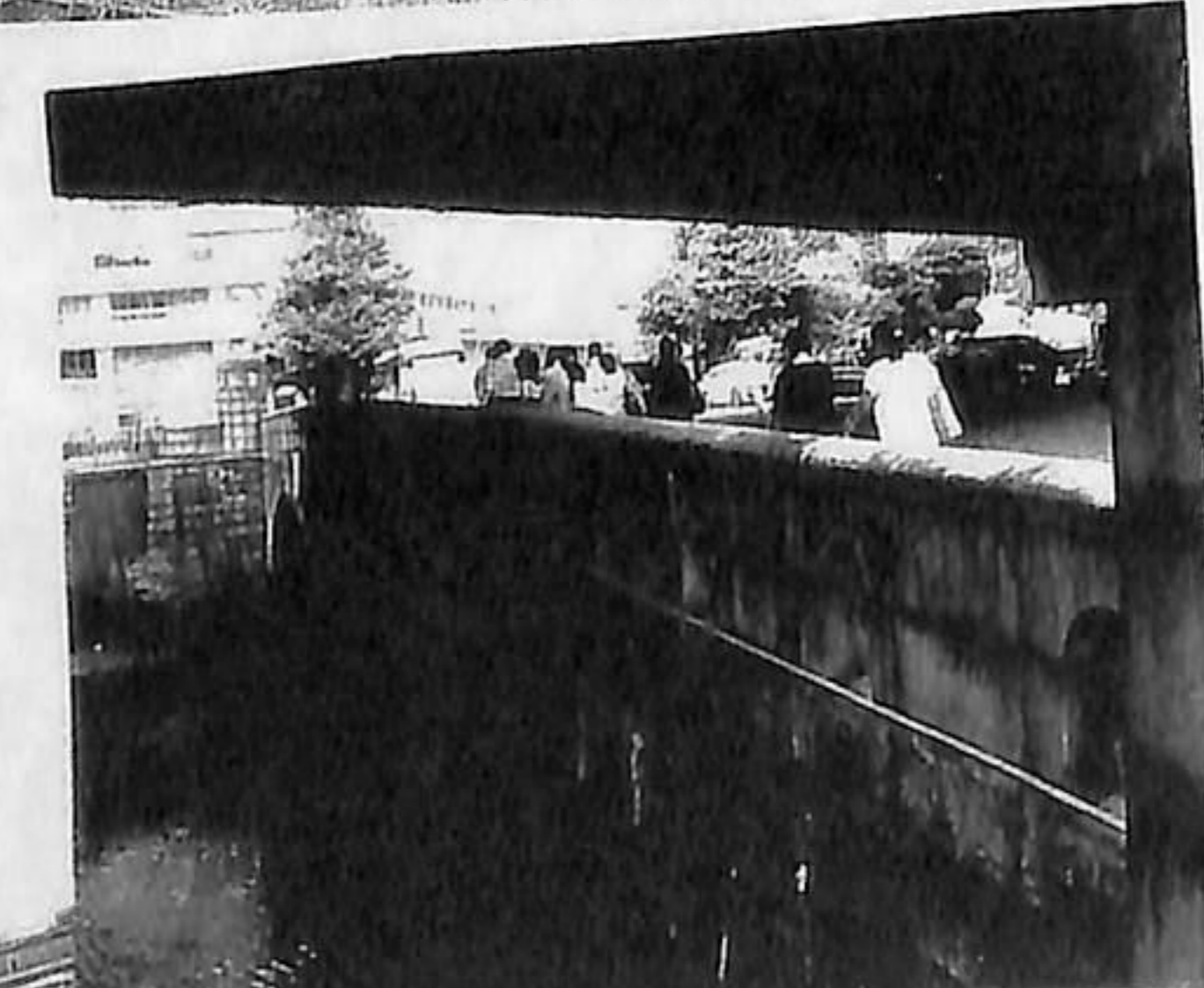
- ①国名を名乗り、五街道の原点となった日本を代表する橋。
- ②慶長8年創建とされるが未詳。度々の火災焼失で19代または20代とされる。現橋は明治44年築、石造りアーチ型、長さ49m、幅27m、国の重要文化財指定。欄干に片側5基の照明塔を設置、東京美術学校に作らせたというきりん、ししなどの彫刻、橋中央に道路元標が埋め込まれている。
- ③橋上の高速道路が目障り、地下に移設しようという運動があるが総工費5000億円、簡単に実現しそうもない。



常盤橋小公園



日本橋



金座跡 日本銀行

石造アーチ橋

日本橋川から神田川、墨田川を遡る

1) 東京水辺ライン「水上バス・カワスミ」

- ① 東京都公園協会「東京水辺ライン」水上バス乗船
全長16m、総トン数17トン=定員64名 満席
乗組み員の安全指示、注意にしてください
- ② 12時20分出航、1時間20分。コースのご案内は船内のテープ放送になります。

2) 慶長はじめ江戸築城のために開削された日本橋川を下る

- ① 日本橋発着場をスタート。見慣れた日本橋も船から見上げると一味違う。花崗岩造り二連アーチ橋、設計米本普一、橋脚と橋台は山口産、側面は真壁石、アーチと道路表面は稲田石を使用している。
- ② 日本橋川は慶長はじめ江戸城第1期工事にあって、主に伊豆半島で切り出された石材輸送運河として築かれた。掘削両側に石垣が積まれたが、現在表面に見える石材はほぼすべてがその後の再築、積み直しである。
- ③ 発着場の対岸は魚河岸跡。慶長年間、長津佃島の漁師が日本橋小田原町に出店を設け、元和2年大和屋助五郎が魚市場を開いたのが起源という。関東大地震後、ほかの市場と統合して築地に移った。いま北詰に「魚河岸記念碑」がある。
- ④ 江戸橋と木更津河岸=江戸時代、日本橋川など堀割は船溜りでもあった。川の両側に船繋ぎ棒杭が立てられ、簡単な栈橋を登ると荷揚げ場があった。五大力船などの川船は船繋ぎ杭に係留、船乗りは船宿やはしけ宿に泊った。
- ⑤ 江戸橋=元は50m東で、橋名は日本橋に続くことから。橋の広小路は火よけ地の盛り場でもあった。昭和38年の鉄筋コンクリート橋。かつて野村證券の橋脇に木更津河岸があった。木更津船の専用港であった。「大坂冬の陣に動員され、多くの犠牲者を出した」ことで特権が認められたという。
- ⑥ 小網町36蔵と鎧の渡しと鎧橋=太田道灌時代は河口大わたり、小網町と茅場町を結ぶ渡し場があったが、明治5年鎧橋がかけられて廃止された。
- ⑦ 亀島川水門=亀島川との分岐点。小廻り川船は亀島川から入り、霊岸島新堀から出た。



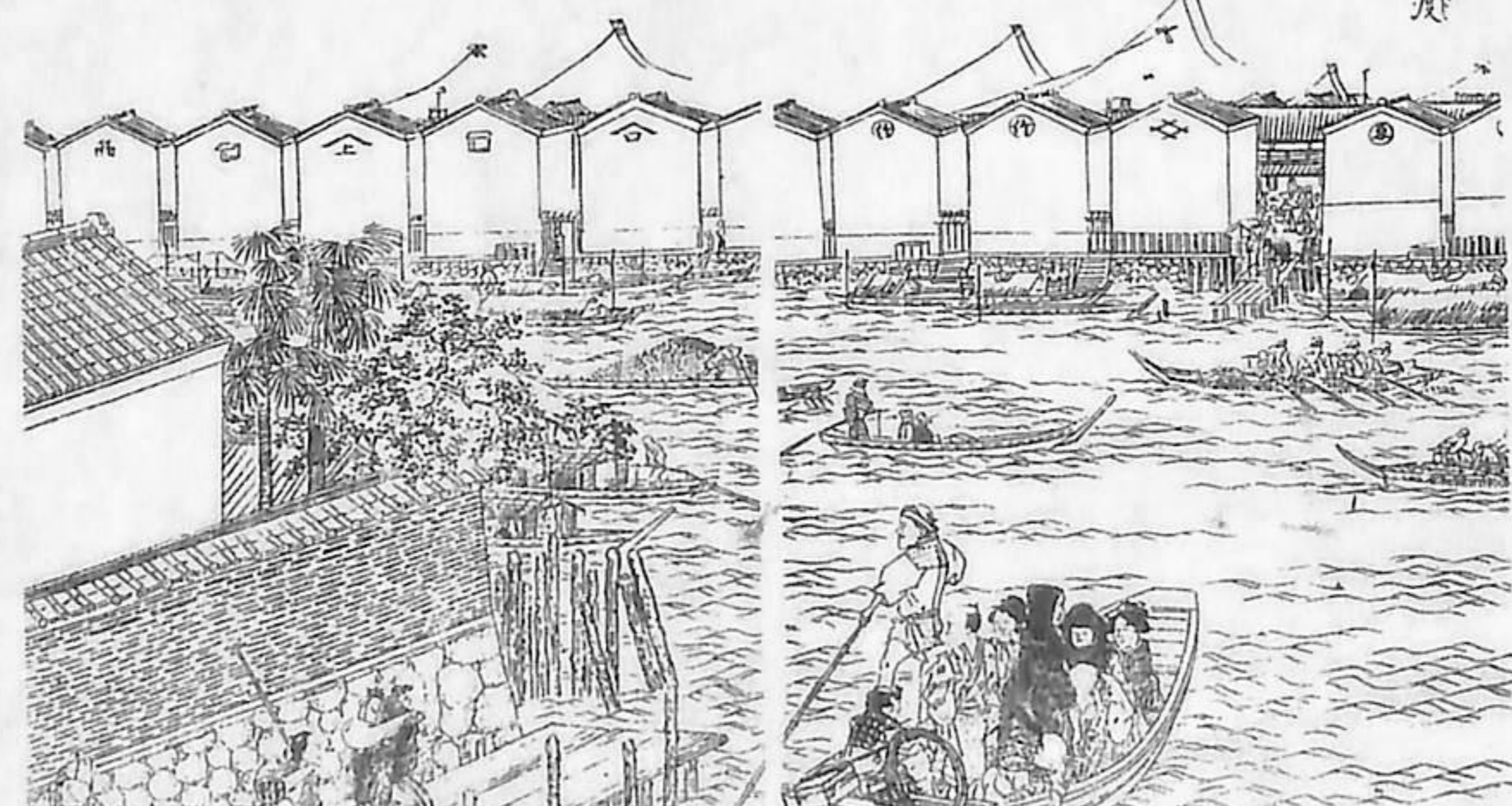
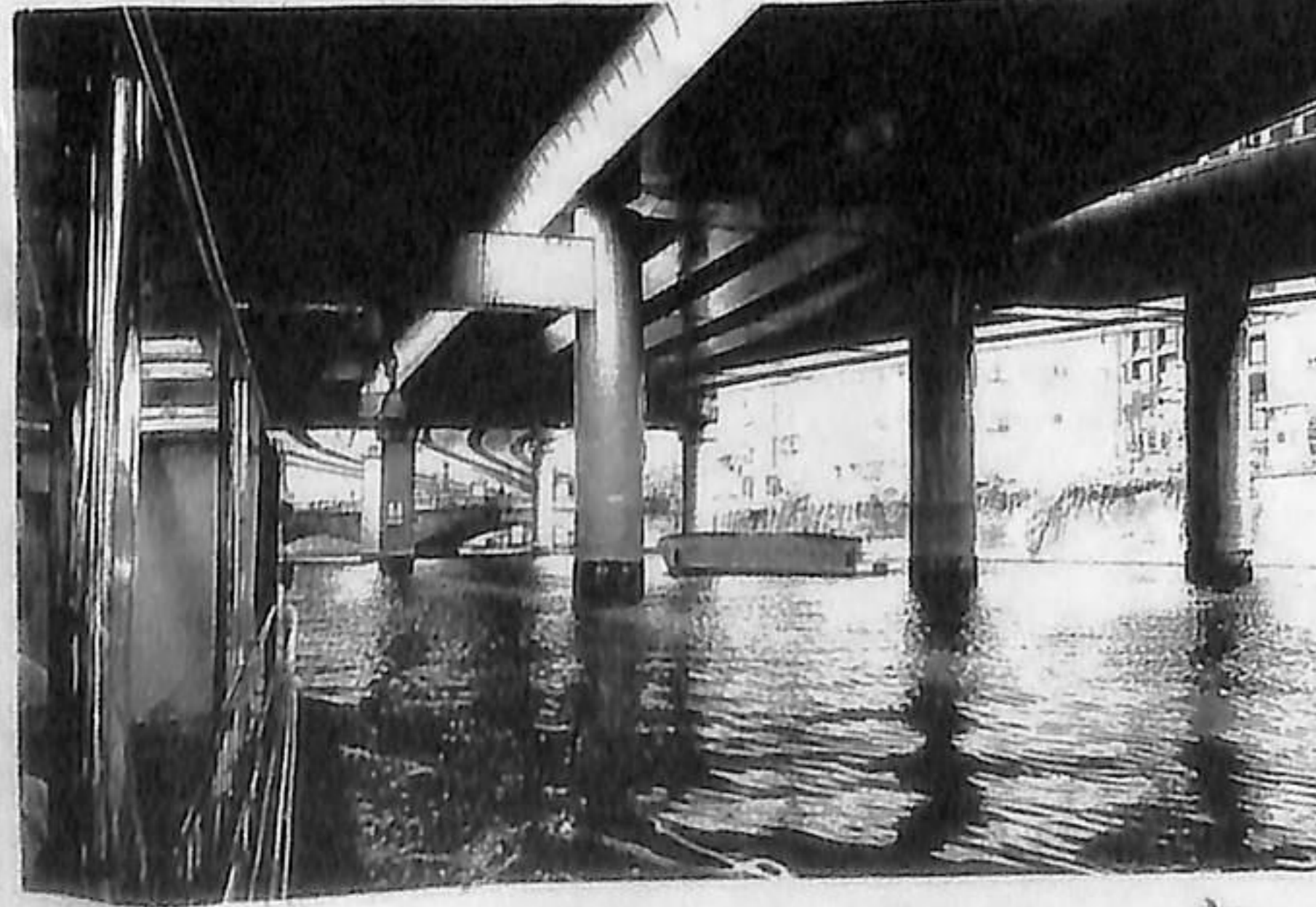
日本橋



堀割、石積



お茶の水の古写真



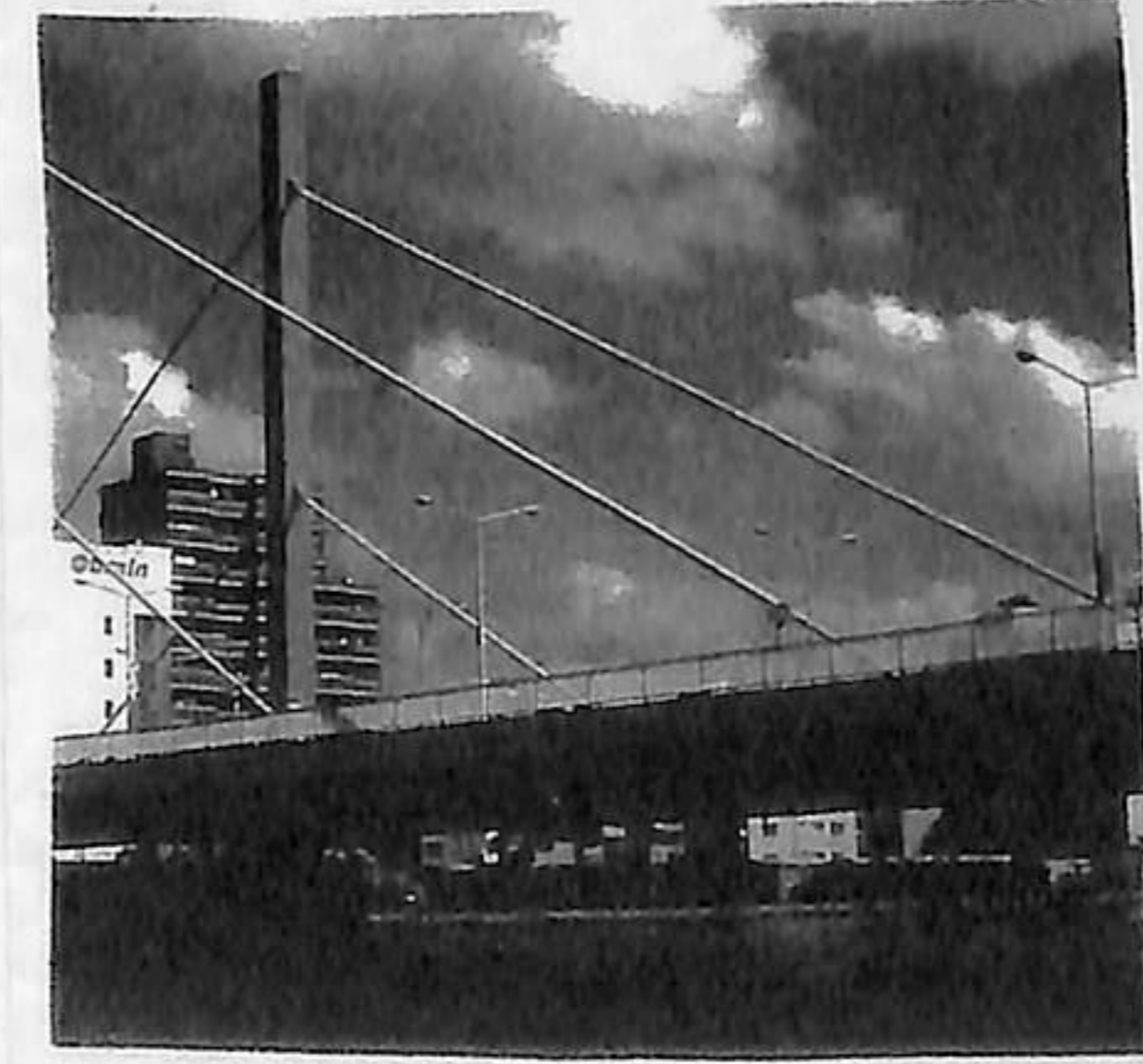
3) 中央線にそって旧外堀の神田川を上る

- ① 柳橋=神田川と大川(隅田川)合流点に立地。元禄11年創架、現橋は昭和4年の鋼アーチ橋で、江戸時代は吉原へ通う渡船場としてちよき船の山谷船船宿が軒を連ねた。現在も両岸に屋形船が係留、当時の面影が残る。また花街としても栄え柳橋芸者が知られた。
- ② 浅草橋=浅草への道、奥州道入り口に立地、寛永13年「江戸城36見附」最後の城門として南詰めに枳形門を置いた。明暦大火の時、小伝馬町牢屋敷からの脱走囚を恐れて閉鎖したため2万人の犠牲者が出た。
- ③ 万世橋=神田川外堀筋違見附橋が前身で、明治5年御門石垣を再利用して石造アーチ橋を架けた。はじめ万世(よろず)橋で、音読みのまんせいが一般化した。隣接するれんが造り建物は元「万世橋駅」で、交通博物館として親しまれた。一帯は家電の町からパソコン、そしてアキバへと変遷した昭和の町の歴史を伝えている。
- ④ 昌平橋=元禄時代5代將軍綱吉の昌平坂学問所に由来。現橋は昭和3年鉄筋コンクリート橋。
- ⑤ 聖橋=JR御茶の水駅側にかかる美しく大きなコンクリートアーチ橋。関東大震災の復興事業として昭和2年に完成、橋名は公募、湯島聖堂とニコライ堂の2つの聖堂に由来した。
- ⑥ 御茶の水橋=御茶の水の地名は江戸始めに所在した高林寺の名水を2代將軍秀忠が茶の湯に用いたことによる。駅周辺の溪谷は台地を切り開いた河川工事、現橋は鋼製橋脚を組み合わせたラーメン橋で昭和6年に建造された。

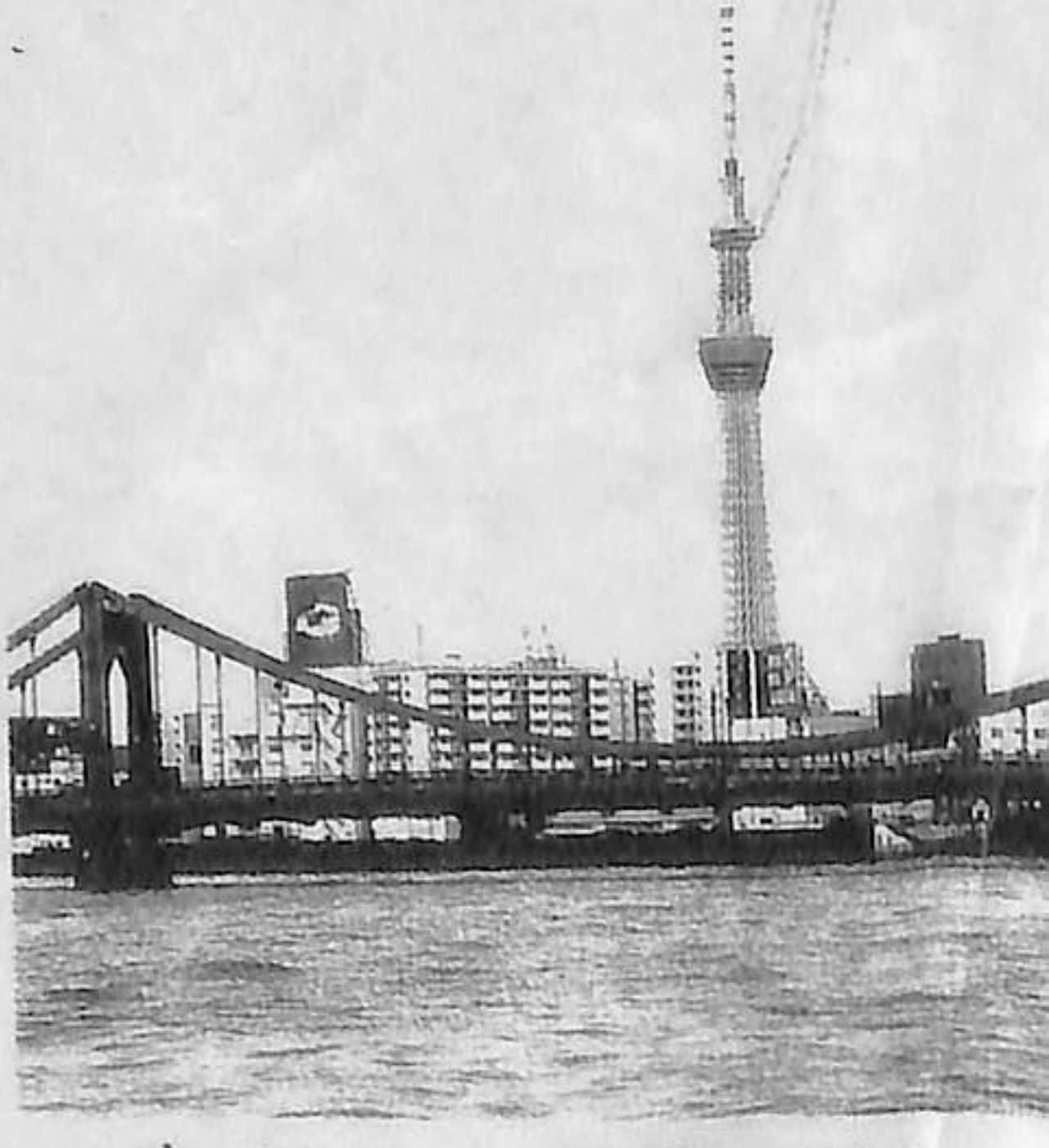
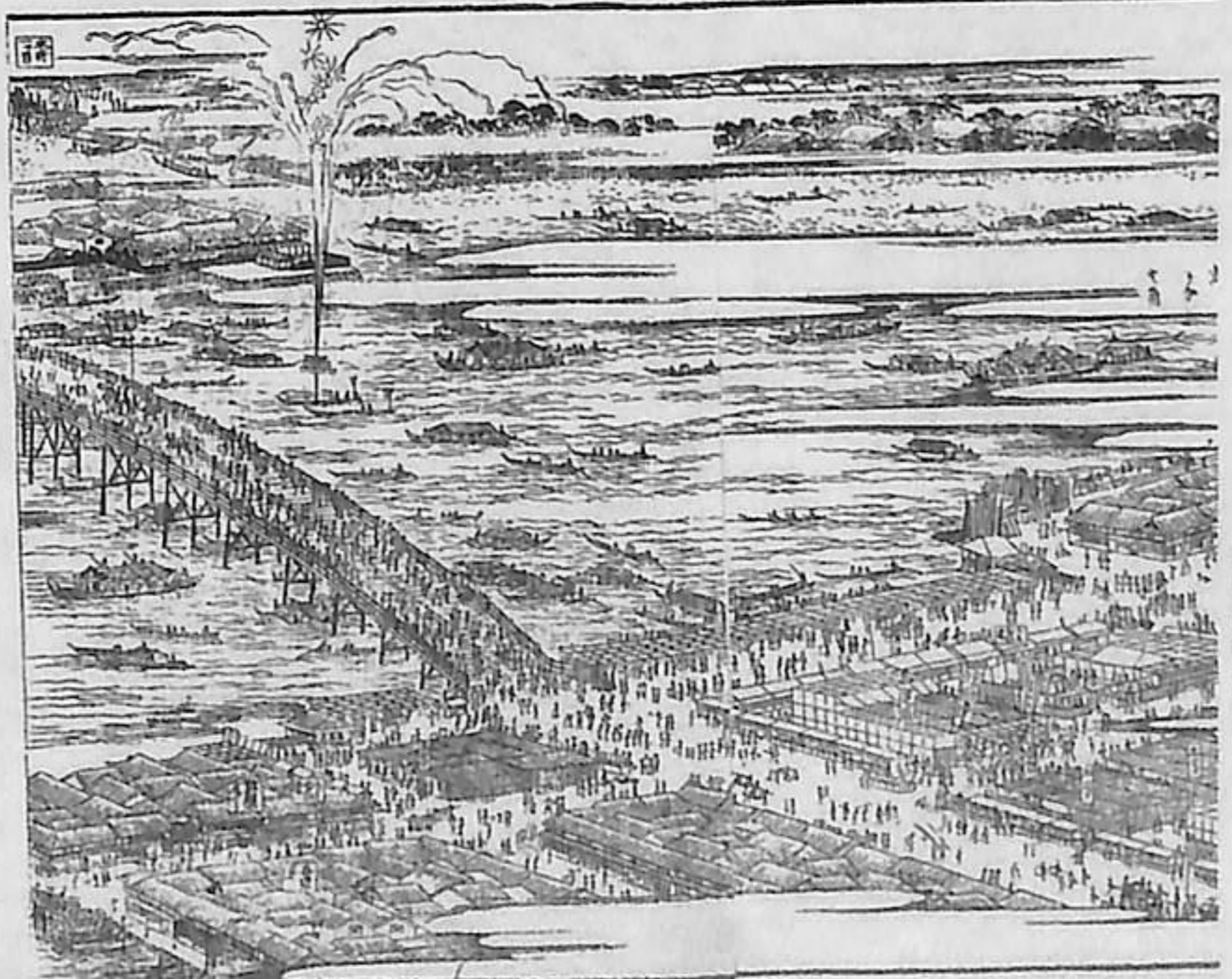
4) 江戸時代の渡しからはじまった墨田川の橋

- ① 永代橋=元禄11年創建したが文化4年の深川八幡宮大祭で崩壊、多くの犠牲者を出した。関東大地震後の復興計画で50mほど下流に鋼アーチ桁型の現橋を再建した。
- ② 清洲橋=関東大震災復興計画で創建。橋名は両岸の清住と中州から。ドイツ・ライン川「ケルンの吊り橋」がモデルとなった。
- ③ 新大橋=元禄7年綱吉の生母・柱昌院が庶民の嘆願に応えたとされる。当時深川に住んだ松尾芭蕉が「ありがたや、いただいて踏む橋の霜」と詠んだ。火事や水害など立替え11回、関東大震災は避難路として多数の人命を救った。現橋は昭和52年完成、鋼斜吊り橋として人気。
- ④ 両国橋=明暦大火で多くの人命を失った反省で立てられた避難路。元は武蔵、下総国境の橋で納涼地として賑わった。明治30年の花火大会で欄干が崩れて多数の死者を出したことから鉄橋に改め昭和7年現橋が再建された。
- ⑤ 蔵前橋=江戸幕府米蔵の地にかかる橋。黄色は米蔵に集まる稲穂を現している。
- ⑥ 吾妻橋=安永3年創設、民営で橋銭をとった。はじめ隅田川の別称「大川」橋といい、明治に東の橋「あずま」橋と直った。昭和6年築の鉄製アーチ橋。浅草と本所を結び、船上にスカイツリーが迫る。折り返して出発点の日本橋に戻る。
- ⑦ 後半は「大河ドラマ」ゆかり、吉田松陰終焉の地を廻って現地解散。

以上



新大橋



清洲橋とスカイツリー



此圖は、
 江戸の
 町並
 及び
 河川
 等を
 詳細
 に
 描
 いた
 ものである。
 此の
 町並
 は、
 寛政
 十
 七
 年
 の
 町
 並
 である。
 此の
 町
 並
 は、
 現在
 の
 町
 並
 と
 異
 なる
 部分
 がある。
 此の
 町
 並
 は、
 江戸
 の
 町
 並
 の
 歴史
 を
 知る
 上
 の
 資料
 である。
 保
 古
 堂
 卯
 年
 毎
 月
 須
 原
 屋
 兵
 衛
 版